

目次

- 1 高次脳機能障害を学ぼう
 - 第5回 社会的行動障害とは

1.高次脳機能障害を学ぼう

第5回 社会的行動障害とは？

社会的行動障害は、

- ・意欲・発動性の低下：やる気が起こらず、ぼんやり過ごしてしまう
- ・情動コントロール低下：イライラなどの感情が抑えられず爆発してしまう
- ・欲求コントロール低下：欲求を我慢できなくなってしまう
- ・対人技能拙劣：場に合った行動をすることができない
- ・依存的行動：できるのに他者にやらせてもらおうとするなど、行動が幼くなる
- ・固執：一つのことに過度にこだわってしまい、変えられない

があります。

具体的には

- ・朝、起きてもやる気になれず、昼過ぎまで布団の中で過ごしてしまう
- ・ちょっとした嫌なことがあると、怒りが抑えられずに怒鳴ってしまう
- ・お金を渡すとあるだけ使ってしまったり、欲しいものがあると我慢することができず、無計画に買ってしまう
- ・状況に関係なく思ったことをそのまま言ってしまいトラブルになる。
- ・周りに人がいると、自分でできることでもすぐ頼ってしまう。
- ・決められた方法があっても自分のやりかた以外を認められない など

症状があるためにできなくなっていることでも、全ての言動が、「本人が怠けているだけ」「すぐキレる性格」「空気が読めない人」などと誤解されることがあります。まず、家族など親しい人に病気やけがをする前とどこが変わったのかを聞きながら、症状による変化があるかどうか見極めることが必要です。

また、他の高次脳機能障害の症状や精神疾患などが要因となっている場合もありますし、病気やけがをして間もない時期はこのような症状は強く出やすいです。本人の言動だけで「社会的行動障害」と決めつけてしまうのではなく、いろんな可能性を考えることで、その人に合った支援を提供しやすくなります。

次回は半側空間無視についてお話します。

